

CLIL（内容言語統合学習）的外国語活動の実践とその効果

茂木 淳子*

1. 研究の背景

外国語活動が本格実施となった。研修体制や校内外との情報交換は不十分であるとしながらも実施環境は整いつつある（英検教会，2012）。英語ノートに代わり，新たに配布された Hi, friends! の活用方法として，歌やチャンツを効果的に取り入れたもの，文字指導を含むもの，プロジェクト型の外国語活動などが挙げられ，様々なアプローチで活動の充実が伺える。

小学校外国語活動では英語を体験的に学ぶ。生きた言葉として扱うことが大切である（吉田，2012）。学習指導要領によれば「指導内容や活動については，児童の興味・関心にあったものとし，国語科，音楽科，図画工作科などの他教科等で児童が学習したことを活用するなどの工夫により，指導の効果を高めるようにすること」とされている（文部科学省，2007）。垣内ら（2005）は，「高学年では，それまでの学習を基礎に英語と既習知識や日々の生活と結び付けた状況設定をし，多様な表現ができるようにする」ことの必要性を訴えている。また，唐川（2009）はリアリティー感覚を与える指導が効果的であり，他教科間の連携が児童の学習意欲を高めると指摘している。つまり，どの学年・学級の児童でも同じ言語材料でいいのではなく，目の前の児童にとって興味・関心のある題材や活動を扱うことで，児童が進んでコミュニケーションを図りたいと思うような外国語活動となり得るのである。

他教科と関連した外国語活動には，どのような利点があるのだろうか。池田（2008）は，その指導の利点について以下のようにまとめている。

- 外国語活動のテーマが児童にとって共通の話題になるため，関心や知識に差が生じにくい。
- 教科で学習した内容を外国語活動で生かし，さらに発展させることができる。
すでに学習した内容を繰り返すことで，安心感をもつことができる。
- 事前の知識があるので，学習内容に興味をもち，集中して聞くことができる。

また，樋口（2005）は他教科での既習の題材を英語の授業で扱うことで子どもたちの知的発達に合わせたインタラクションへと広がる可能性があることを指摘している。

このような利点をもつ，教科横断的な外国語活動の実践については数多くの報告がある。塚越（2008）は，算数，社会科，理科と関連した内容の外国語活動を実践，検証し，その活動が小学校高学年児童の動機づけを高める可能性が高いことを明らかにしている。また，垣内ら（2005）は，天気をテーマとした英語活動の開発と実践で，「関心や態度面」「知識の面」において効果がみられたことを報告している。

CLIL（内容言語統合学習）とは，Content and Language Integrated Learning（Coyleら，2010）の略語であり，言語教育と教科教育を統合して母語以外の言語を使って学ぶ。アメリカのContent-based Instruction（内容重視指導法）やカナダのイマージョン教育に匹敵するもので，近年ヨーロッパを中心に注目されている教授法の一つである。EFL環境にある日本では，このシステムをそのまま導入しても効果は期待できず，日本に合ったアプローチの仕方が必要となる（トム，2012）。前述したように，研修体制が十分でない現状では，高学年担任が第2言語だけで教科の内容を指導するのは困難である。そこで，必要最低限の教科内容を日本語で教え，その内容に沿うように外国語活動を実施することで，「習った英語をすぐに使える分かりやすい環境・文脈を提供する」というCLILの長所（トム，2012）を生かした活動が可能になるのではないかと考えられる。

* 上越教育大学附属小学校

2. 研究の目的

本研究の目的は、CLIL的外国語活動の単元を開発・実践し、その効果を明らかにすることである。

3. 研究の方法

3.1. 参加者と指導者

本研究の参加者は公立小学校の5, 6年生である。1学年2クラスの編制で、5年生が46名、6年生52名であった。週に1時間の外国語活動があり、担任もしくは外国語担当教師とALTがTTで授業を実施した。

3.2. 実施時期

本研究は2012年1月～2月に行われた。

3.3. 活動のねらい 「私のオリジナル弁当」

- 世界や日本の食文化に興味をもち、丁寧な言い方でコミュニケーションを図る楽しさを体験する。
- ・積極的にオリジナル弁当の紹介をし、たくさんの人と英語で関わることを楽しもうとする。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- ・世界の朝ごはんやオリジナル弁当の活動を通して What would you like? などの英語表現に親しむ。【外国語への慣れ親しみ】
- ・世界には、様々な食文化があることに気付く。【言語や文化に関する気付き】

3.4. 単元の構想

本単元は、食育とタイアップした企画である。食育のねらいは、①「私のオリジナル弁当」を考える活動を通して、バランスのとれた食事の大切さや健康な体をつくる実践的な態度を育てる、②献立作成や調理において、家族と一緒に弁当を作り上げることで、学校と家庭が連携して行う食育活動の推進と啓発を図る、の2点である。

この活動は、毎年恒例の活動である。1年生から6年生まで、必要に応じて家族に手伝ってもらいながら、できるだけ自力で弁当を作ってくるというものである。自分の好きなおかずだけが並ぶ弁当ではなく、事前授業で栄養教諭からバランスのとれた食事についての話を聞き、どんなメニューにしたらいいかを考える。弁当の彩を工夫する子、地産地消にこだわる子、手打ちうどんに挑戦する子、キャラ弁作りを楽しみにする子など、本活動に対する興味・関心は高い。

子どもがこだわりをもって作ってくる弁当は、それだけで外国語活動の有効な教材となり得る。オリジナル弁当は自分事である。自分でメニューを決め、朝早起きして苦勞しながら作った、思い入れの強いものであるがゆえに、自分の弁当を紹介したいという気持ちになりやすい。また、友だちとの間にインフォメーションギャップも存在する。友だちはどんなメニューでどんな配置にしたのか、自分の弁当よりもおいしそうなのかどうなのか、という興味・関心がある。教師がオリジナル弁当で交流させようとする以前に、子どもにはそうしたい気持ちが生じているのである。

3.5. 外国語活動（全3時間）と食育（全2時間）の単元計画

	外国語活動（担任・ALT）	食育（栄養教諭・担任）
1 時間目	<p>◇世界の朝ごはんを知ろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の朝ごはんを紹介した動画を見る。 http://www.youtube.com/watch?v=qiiZVluUC00 ・ALTの説明を聞きながら、いろいろな食べ物の英語での言い方を知る。 50 of the World's Best Breakfasts http://blog.hostelbookers.com/travel/best-breakfast/ ・朝ごはんについて話す。 What would you like for breakfast? / I'd like ~. ・ふり返りシートとプチチャレンジ ALT: What would you like for breakfast? / 児童: I'd like ~. 	<p>◇バランスのよい食事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3つの食品群について ・主食・主菜・副菜のバランスについて

家庭学習		◇どんな弁当が作れそうか、 家の人と相談する
2 時間目	◇オリジナル弁当のメニューを考えよう ・世界のいろいろな朝食を見て、感想を言う。 ・練習：Looks good. / Looks delicious. / Looks healthy. / What would you like? / I'd like this. ・オリジナル弁当を考え、ポスターを作る。 ・ふり返しシートとプチチャレンジ 児童：What would you like? / ALT：I'd like this.	
家庭学習		◇オリジナル弁当を作ろう ・各家庭でオリジナル弁当 を作る。
給食	◇オリジナル弁当を味わおう ・オリジナル弁当の写真を撮り、食べる。	
3 時間目	◇オリジナル弁当を紹介し合おう ・弁当紹介デモンストレーション ・練習：Looks good. / Looks delicious. / Looks healthy. / What would you like? / I'd like this. ・オリジナル弁当を紹介し合う。 ・ポイントカードを数える。 ・Can-Do評価とプチチャレンジ ALT：What would you like? / 児童：I'd like this.	◇振り返り ・オリジナル弁当作りを振り返って学んだことや感想などを書く。

3.6. 活動例 (3/3)

3.6.1. 展開の構想とCan-Do評価

本時では、【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】を自己評価の対象とし、オリジナル弁当を紹介し合う活動についてのCan-Do評価を下記のように設計した。第2段階の児童に対する手立てとして、ジョーマネー（ポイントカード）を用意した。友だちの考えたオリジナル弁当をただ見たり、聞いたりするだけでなく、「気に入った」という気持ちの表れとしてジョーマネーを渡すことができるようにするためである。積極的に友達とかかわることが苦手な子へのコミュニケーションのための一助としたい。ただ、黙ってジョーマネーだけを手渡すということがないよう、うまくコメントができない場合には一緒に発話するなどの支援が必要である。また、第4段階の児童に対しては、発展的な課題として、よりたくさんの人に声をかける機会を設けた。

Can-Do評価 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

段 階	達 成 度
第1ステージ	㊄ 友だちのオリジナル弁当についてのコメントも、自分の弁当のPRも、うまく言えなかったし、ジョーマネーも、わたせなかった。
第2ステージ	㊄ お気に入りのオリジナル弁当を見つけて、ジョーマネーを渡すことができた。
第3ステージ	☺ お気に入りのオリジナル弁当を見つけて、ジョーマネーを渡すことができた。 ☺ 友だちのオリジナル弁当についてのコメントを英語で言えた。
第4ステージ	☺ お気に入りのオリジナル弁当を見つけて、ジョーマネーを渡すことができた。 ☺ 友だちのオリジナル弁当についてのコメントを英語で言えた。 ☺ 自分のオリジナル弁当のPRを英語で言えた。

3.6.2. 展開

時間	内 容	・担任の役割 ◆支援 ★評価	・ALTの役割
2	あいさつ	・英語であいさつ	
10	デモンストレーション	・デモンストレーションを見せる。 <div> ALT : Please, come here! Look at this. ALT : Hello. 担任 : Hello. ALT : What would you like? 担任 : Looks good / delicious / healthy. I'd like this. Here you are. ATL : Thank you. </div>	
	練習	・発音の練習をする。 Looks good. / Looks delicious. / Looks healthy. / What would you like? / I'd like this.	
20	オリジナル弁当の紹介	・ルールとゴールの説明 <div> ・お弁当屋さんとお客さんに分かれる。 ・お客さん役には、1ポイントのジョーマネーを一人10枚配布する。 ・参観者にも参加してもらうため、5ポイントのジョーマネーを配布する。 ・お弁当屋さんは、自分の弁当についての紹介をする。 ・お客さんは、それぞれの弁当について、簡単な英語で感想を言う。 ・お気に入りの弁当が見つかったら、ジョーマネーを1枚渡す。 ・時間になったら、役割を交代する。 </div> ◆うまくコメントができない児童の支援に当たる。 ★積極的にオリジナル弁当の紹介をし、たくさんの人と英語で関わることを楽しもうとする。【コミュニケーション】(行動観察) ★オリジナル弁当をPRする活動を通して What would you like? などの英語表現に親しむ。【慣れ親しみ】(行動観察・評価シート)	
3	ジョーマネーを数える	・ポイントをカウントする。	
10	Can-Do評価 プチチャレンジ あいさつ	・Can-Do評価の説明 ・プチチャレンジの内容を知らせる。 ★積極的にオリジナル弁当の紹介をし、たくさんの人と英語で関わることを楽しもうとする。【コミュニケーション】(Can-Do評価)	・プチチャレンジ ALT : What would you like ? 児童 : I'd like this. ・あいさつ
	準備 (教師)	・オリジナル弁当の写真 ・ジョーマネー (ポイントカード)	・評価シート
	準備 (児童)	・オリジナル弁当のポスター ・筆記用具	

3.7. 質問紙

- ① ARCS動機づけモデルに基づく5段階形式（5：はい，4：少しはい，3：どちらでもない，2：少しいいえ，1：いいえ）の6項目からなるアンケート
- ② 4段階形式によるCan-Do評価（自己評価）
- ③ 活動の感想（自由記述）

3.8. 分析方法：js-STAR 2012による直接確率計算

4. 研究の結果

表 1 ARCS動機づけモデルに基づく6項目の平均値（*M*）・標準偏差（*SD*）と分析結果

	<i>M</i>	<i>SD</i>	肯定	中立・否定	<i>p</i>	比 較
1 おもしろい	4.44	0.80	85	13	.00 **	肯定>中立・否定
2 やりがいがある	4.23	0.81	77	21	.00 **	肯定>中立・否定
3 チャレンジ	4.20	0.98	76	22	.00 **	肯定>中立・否定
4 自信がつく	3.96	0.98	76	22	.00 **	肯定>中立・否定
5 満足できる	3.98	0.98	67	31	.00 **	肯定>中立・否定
6 もっとやりたい	3.89	1.08	61	37	.00 **	肯定>中立・否定

***p*<.01

表 2 Can-Do評価の平均値（*M*）・標準偏差（*SD*）と分析結果

	<i>M</i>	<i>SD</i>	肯定	その他	<i>p</i>	比 較
Can-Do評価	3.17	0.63	88	10	.00 **	肯定>その他

***p*<.01

表 3 自由記述の分類

肯定的な記述		その他の記述
「よかった」 ・楽しく英語を学べたこと ・新しい英語を覚えられたこと ・Looks goodなどを上手に言えたこと ・英語で弁当の紹介ができたこと ・友だちの感想を聞けたこと ・みんなの弁当を見られたこと ・みんなの弁当がおいしそうだったこと		「楽しい」 ・英語で弁当の紹介をすること ・大きな声で言えたこと ・みんなの弁当を見られたこと ・弁当を紹介し合うこと ・友だちの弁当を評価すること ・ジョーマネーで弁当を買ったり売ったりすること 「難しい」 ・英語で言うこと 「緊張した」 ・多くの人に自分の弁当を紹介すること
「おもしろい」 ・英語でオリジナル弁当を紹介すること ・友だちの質問に答えること ・ジョーマネーで弁当を買ったり売ったりすること		「うれしい」 ・英語でコメントできたこと ・英語を覚えられたこと ・おいしそう，イイねと言ってもらえたこと ・ジョーマネーがいっぱいもらえたこと 「びっくりした」 ・自分のオリジナル弁当を英語で紹介すること

5，6年生98名を対象として，ARCS動機づけモデルに基づくアンケートを実施した。項目ごとに集計し，平均（*M*）と標準偏差（*SD*）を求め，表1に示した。また，アンケートに「はい」「少しはい」と答えたものを肯定群とし，「どちらでもない」「少しいいえ」「いいえ」を中立・否定群とし，2：3の母比率不等で直接確率計算をした結果，す

すべての項目において、肯定的な回答が中立・否定的な回答を有意に上回った。

Can-Do評価の平均値（*M*）・標準偏差（*SD*）を表2に示す。3.6.1.に示す第3ステージと第4ステージを肯定的回答、第1ステージと第2ステージをその他の回答とし、直接確率計算をした結果、肯定的回答が有意に上回った（片側検定 $p=0.00$, $p<.01$ ）。

次に、自由記述をKJ法に基づき、カテゴリーごとに分けた。その結果を表3に示す。肯定的な記述「よかった」「楽しい」「おもしろい」「うれしい」の4項目、その他の記述は「難しい」「緊張した」「びっくりした」の3項目にまとめられた。自由記述の中には肯定的な項目が多く、「やりたくない」「おもしろくない」「つまらない」といった否定的な記述は見当たらなかった。

5. 考察

食育とのコラボレーションを図ったCLIL的外国語活動は、有効であることが示された。特筆すべき点は、「自信」に関する項目が有意に高かったことである。この項目で有意差が認められることはあまりない。ほんの数回の活動だけで自信がもてるような状態にはなりにくいと推測されるからである。

もしかしたらその自信は英語に対するものではなく、自信作のオリジナル弁当に対するものとすり替わっているのかもしれない。仮にそうだとすると、自分の弁当に自信をもち、「伝えたい」「聞きたい」という気持ちを後押しするのであれば、指導者としては大いに満足できる結果であるといえる。単なるゲームでのやり取りとは違い、友だちからもらうコメントの一つ一つが自分の心に届く言葉となったことが、以下の記述から伺えるからである。

自分のオリジナル弁当を英語で紹介するのはびっくりだったけど、いろんな人に「Looks good!」と言ってもらえて英語にも料理にも自信が付きしました。(児童A感想)

多くの人に自分の弁当を紹介するのは緊張したけど、おもしろかったです。他の人の作った弁当を評価するのも楽しかったです。「Looks delicious」とたくさん言われて、すごうれしかったです。また、こういうことをやりたいなと思いました。(児童B感想)

6. 今後の課題

他の教科とのコラボレーションによるCLIL的外国語活動の単元の開発・実施と、その効果を明らかにすることにより、子どもの外国語活動に対する自信を高めることができるのかどうかを検証する必要がある。

引用・参考文献

- 池田勝久 「第4章 先進校に学ぶ小学校英語の実像とノウハウ」, 吉田研作編『21年度から取り組む小学校英語』教育開発研究所, 2008年
- 垣内信子・坪田幸政 「高学年児童に向けた小学校英語—天気をテーマとした英語活動の開発と実践」『千葉大学教育学部研究科紀要』第53巻, 2005年, 43～54pp
- 唐川和彦 「他教科との連携を踏まえた小学校英語教育—内容スキーマの向上を意識した指導法の検討—」『Research bulletin of English teaching』(6), 2009年, 43～60pp
- 公益財団法人日本英語検定協会 「授業内容や教員の資質に不安4割：英語協会の小学校外国語活動調査（上）」『内外教育』No.6169, 2012年, 10～11pp
- 塚越勇樹 『他教科に内容に関連づけた小学校英語活動の試み』上越教育大学大学院提出修士論文, 2008年
- トム レドブリ 「英語と他教科のコラボレーション」『12回小学校英語教育学会（JES）千葉大会要綱集』, 2012年, 23p
- 中野博幸・田中敏 『フリーソフトjs-STARでかんたん統計データ分析』技術評論社, 2012年
- 樋口忠彦 『これからの小学校英語教育』研究社, 2005年
- 文部科学省 『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』, 2007年
- 吉田研作 「小学校教育と外国語教育における外国語活動の役割」『初等教育資料』No.886, 2012年, 6～9pp
- Coyle, D., Hood, P., and Marsh, D., *Content and Language Integrated Learning*. Cambridge: Cambridge Univ. Press, 2010年